

7266 今仙電機製作所

増谷 修 (マサヤ オサム)

株式会社今仙電機製作所社長

国内外における受注回復が進み増収増益を達成

◆平成 23 年 3 月期第 2 四半期決算の概要

管理本部長 坪内 明

当第 2 四半期は、世界的な自動車減産の影響を強く受けた前年同期と比較して国内外ともに受注が大幅に回復し、増収増益となった。売上高は 420 億 79 百万円(前年同期比 25.1%増)、営業利益は 33 億 99 百万円(同 124.6%増)、経常利益は 30 億 87 百万円(同 80.4%増)、四半期純利益は 15 億 80 百万円(同 98.9%増)となった。資産面では、売上回復に伴い、売掛債権・買掛債務が増加し、総資産が増加した。純資産も増益により増加した。1 株当たりの純資産は 1,662.79 円となり、自己資本比率はやや改善して 48.1%となった。

営業利益の増益要因は、国内自動車部品増収影響、海外自動車部品増収影響、国内自動車部品原価低減等であり、総額で約 42 億円の収益改善となった。一方、減益要因は、緊急避難措置の緩和、鋼材等原材料値上げの影響、為替変動の影響等であり、総額で約 23 億円の収益悪化となった。費用面は、為替と鋼材の影響を除いてほぼ計画どおりに推移している。

第 1 四半期には、売上高が高く安定した水準となる一方で、特別な収益悪化要因がほとんど発生しなかったことから、高い利益率を確保できた。しかし、第 2 四半期には、8 月の長期連休等による売上減少に加え、円高、原材料値上げ、北米事業の収益悪化等の影響により、利益率が低下した。

設備投資は、国内投資の回復と北米での現地内製化投資等により大幅に増加した。減価償却費は、前期までの投資抑制の効果により減少した。

キャッシュフローについては、法人税等の支払額増加により営業キャッシュフローが減少し、設備投資の増加により投資キャッシュフローが増加したことから、フリーキャッシュフローは、前期比で大きく落ち込んだものの、6 億 43 百万円を確保した。余剰資金については、引き続き、借入金の返済を進めている。

◆事業別・所在地別セグメントの状況

売上構成比の 95%を占める自動車部品関連事業は、国内およびアジア地域での受注増に加え、コスト削減を継続した結果、増収増益となった。ホンダ系列向けは、米国自動車市場の回復と、中国採用車種の販売が好調に推移したことにより、前年同期比で 17%増加した。日産系列向けは、中国採用車種の販売が好調に推移したことや採用車種の追加等により、21%増加した。前期に大きく落ち込んだ三菱系列向けは、輸出向けの国内生産が急回復したことにより大幅な伸びとなった。製品では、売上構成比 85%を占めるシートアジャスタの増加が事業全体の伸びを支えている。また、ランプ、ホーン、灰皿を含むその他製品の増加率が高くなっている。

ワイヤーハーネス関連事業は、航空機向けの受注が堅調に推移したほか、工作機械需要も徐々に回復傾向にあることから黒字回復した。福祉機器関連事業は、期初における電動車いす販売の出足の悪さが影響し、減収減益となった。自動車販売関連事業は、エコカー減税や補助金効果により売上高はやや回復したものの、採算面では依然として厳しく、損失計上が続いている。

所在地別の売上は各地域とも順調に回復している。特にタイ・中国が好調に推移した結果、アジアにおける事業の比重が一層高まり、海外売上高比率も42.6%まで上昇した。国内は単体の受注回復により増収増益となった。北米は、ホンダの生産量回復により増収となったが、円高の影響等から赤字計上が続いている。アジアはタイの大幅な受注回復により増収増益となった。

◆平成23年3月期通期業績見通し

第2四半期までの業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正した。エコカー減税の打ち切りによる需要の落ち込みが懸念されるが、海外売上高比率の高まりに加え、国内でも輸出車種向け製品が少なくないことから、大きな落ち込みはなく、通期でも期初予想を上回ると予想している。売上高は833億円(前期比約92億円増)、営業利益は63億円(同約11億円増)、経常利益は58億円(同約5億円増)、当期純利益は34億円(同約3億円増)を見込んでいる。

期初予想比における増益要因は、国内自動車部品増収影響、海外自動車部品増収影響、国内自動車部品の原価低減等であり、総額で約23億円の収益改善を見込んでいる。一方、減益要因は、為替変動の影響、緊急避難措置の緩和、販売管理費の増加等であり、総額で約13億円の収益悪化を見込んでいる。

前期比では、国内外の自動車部品増収影響が最も大きくなるほか、国内自動車部品の原価低減、海外自動車部品の収益改善等があり、総額で約60億円の収益改善を見込んでいる。一方、緊急避難措置の緩和、販売管理費の増加、為替の影響等で、総額約48億円の収益悪化を見込んでいる。

前期においては、急減した売上に対応すべく緊急避難的な措置を含めて経営体制の絞り込みを進め、変動費で約15億円、固定費で約24億円を圧縮した。特に、組織のスリム化等による間接労務費の削減が大きな効果を挙げた。今期は、受注量の回復に加え、さらに新規立ち上がりも控えていることから、この水準を戻しており、間接労務費負担が増加している。これが収益圧迫要因となっているが、適正な会社の運営のためには、ある程度やむを得ないものと考えている。研究開発費の増強等も緊急避難措置の緩和に含めている。

設備投資は、前期までの投資抑制による先送り分に加え、来期に控える新規立ち上がりの準備や新技術・内製化等への投資強化により、前期比51億45百万円増の69億90百万円を見込んでいる。減価償却費は、投資抑制に加え、今期の設備投資の状況から、同4億1百万円減の40億円を見込んでいる。

◆事業別・所在地別セグメントの見通し

自動車部品関連事業は、円高や原材料高の影響を受けるものの、アジアにおける好調さを維持することで増収増益を予想している。得意先系列別の状況は第2四半期までとほぼ同様の傾向となり、製品構成も、第2四半期までと大きな変化はない。ワイヤーハーネス関連事業は、工作機械市場の回復傾向が続くことから増収増益を予想している。福祉機器関連事業は、前期に発生した一時的な開発売上がなくなることから、やや減収減益を予想している。自動車販売関連事業は、販売強化と費用削減に取り組み、収益改善に努めるが、若干の赤字となる見込みである。

所在地別では、各地域ともに生産が回復し、収益改善が見込まれるが、特にアジアの伸びが大きく、売上・利益ともにアジアの比重が一層高まる見込みである。国内は、想定以上の受注回復により増収増益を予想している。北米は、当初計画並みの売上で推移するものの、為替の影響等から若干の赤字を予想している。アジアは、中国が引き続き堅調に推移するほか、タイの回復が見込まれることから増収増益を予想している。

◆今後の経営方針

社長 増谷 修

当社では、「Proud 2nd Stage(Recovery 1-2-3)」と名付けた中期経営計画を策定し、3年間での成長路線への回復計画を展開している。前期はステップ1の「縮小した市場でも利益確保できる体制」への絞り込みに取り組み、ほぼ達成できた。今期はステップ2の「生産体制、事業構成の最適化」を目指している。その取り組みとして、受注水準の回復に合わせ、緊急避難措置の緩和を図る一方で経営管理体制の強化を図っている。受注水準の回復が当初の想定以上のペースで進んでいることもあり、次のステップを視野に入れた取り組みも先行して強化していきたい。ステップ3は、今後のさらなる成長に向けた投資の積極化や受注量確保等への取り組みである。足元対応が中心の従来の投資に代わり、研究開発や新技術のための設備増強等、将来に向けた投資の比重を一層高めていくため、重点投資分野の見直しを進めている。

こうした投資方針の具体的な取り組みの一つとして、海外拠点の拡充・増強への投資を進めている。シートアジャスタで世界トップレベルを実現するため、現地調達・内製化や生産力増強を促進する目的で、北米・中国にそれぞれ第2の生産拠点を設置、タイでは第2工場を建設することとした。

北米においては、大型の新規受注に対応するためテネシー州に新工場を設置する。準備期間の短縮と設備投資の抑制を図るため、既設工場を取得し、来年半ばの稼働開始に向けて準備を進めている。北米事業の大幅拡大が見込まれるほか、将来的には他拠点での受注にもつながると考えている。また、既存のオハイオ工場との一元管理により、北米事業としてのシナジー創出とコスト削減を目指す。

中国においては、内陸部への製品供給が年々増加していることから、湖北省武漢市に拠点を設置し、供給網を整備する。これにより、中国国内の物流効率の改善を図るとともに、今後の生産量増大に対応していく。平成24年度中の操業開始に向けて準備を進めている。

タイにおいては、今後予想されるタイ国内の自動車生産の伸びを取り込むため、既存工場の隣接地に第2工場を建設し、プレス専用工場とする。これによりプレス工程の生産能力は約2倍となるため、現地調達率・内製率をさらに高めていきたい。また、既存工場の空いたスペースに溶接・組立設備を増強し、生産能力を約1.3倍に高める。タイは、自動車産業において最も成長が期待できる地域の一つであり、東南アジア圏のマザー拠点として育てていきたい。

インドについては、今年4月から量産を開始している。中国と並んで今後一層の拡大が期待される巨大自動車市場であることから、設備を増強して今後の新規立ち上げに備える。

(平成22年11月19日・東京)